

令和6年度 自己評価および学校関係者評価書

令和7年3月25日
函館市立高丘小学校

1 本年度の重点教育目標

「気づき 考え 行動する子」の育成

2 本年度の取組の重点

- ① 確かな学力の向上 ②豊かなつながりの充実
② 健やかな体の育成 ④地域とともにある信頼される学校づくり

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価結果		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善の方策の評価 主な意見（改善策など）
1 確かな学力の向上を図る教育活動	児童の学習意欲を高めて、主体的に取り組むための授業形態の工夫と一人一台端末の効果的な活用を図ることができたか。	a	一人一台端末の効果的な活用を図る授業改善を全学年で推進し、個別最適化な学びと協働的な学びの充実が図られた。	A	A ・端末を1年生から使い、児童が興味を持つような授業を進めているのを見ることができた。また、使用しない選択もできる環境だったのは評価できた。対応する教師のスキルが重要になると感じた。
	児童が自ら進んで家庭で学習したり、読書をしたたりする習慣を身につけるための取組の推進を図ることができたか。	b	家庭学習強調週間およびサポート課題の取組により一人一台端末の活用が促進された。今後も、家庭におけるメディアにかかる時間について改善を図っていく。	A	A ・端末利用が増えてくる中、読み取る力をどのように学んでいくかは重要な課題だと思う。
2 豊かなつながりの充実を図る教育活動	豊かな体験活動を通して、人としての生き方や他者との関わり方について考える教育活動の推進を図ることができたか。	A	近隣施設や町会との連携による防災1日学校やごみ拾い活動等の新たな取組の実施により、地域学校協働活動の推進がされ、地域とともにある学校づくりを実現し、児童の自己有用感を向上させることができた。	A	A ・地域との関わりはこれから引き続き、園としても継続していきたい。
	心に響く道徳教育を行い、いじめの未然防止等につながる教育活動の推進を図ることができたか。	b	全教育活動の要としながら道徳教育の充実を図った。いじめの積極的認知に努めた。今後も、いじめを見逃さず、未然防止に努める取組を継続して行っていく。	A	A ・大きな社会問題としての課題でもあります。引き続き取り組みを進めてください。
3 健やかな心身を育む教育活動	体育の授業改善を進め、体力向上に向かう態度や能力を育む教育活動の推進を図ることができたか。	b	身体を動かすことが好きな児童が多い反面、運動能力等の調査から、家庭生活の中での運動習慣の定着に課題があることが明らかになった。今後も、体育の授業改善や保護者の協力等により体力向上を図っていく。	A	A ・体力の向上については幼児期にも力をいれていく課題だと思う。 ・明確になった課題について取り組みを進めてください。
	自ら健康で安全な生活を営む態度や能力を育てる教育活動の推進を図ることができたか。	a	函館短大による食育の授業をはじめ、健康的で望ましい生活習慣を身につけるための取組を行った。今後も家庭と連携しながら継続指導していく必要がある。	A	A ・福祉の現場としても協力できることがあればと考えています。
4 学校における指導体制等の充実	重点教育目標の実現に向けて教職員が責任と役割を果たしながら、相互に連携して教育活動に取り組むことができたか。	a	持続可能な学校を実現するために、全教職員が責任と役割を果たしながら教育活動を進め、学校の課題解決に努めることができた。	A	A ・教職員の在校時間の短縮できたことは十分評価にあたると思う。保護者の協力、教師の意識改革が大切だと思う。
	働き方改革を推進し、学校における業務改善の取組を進めながら、教職員の在校等時間の短縮を図ることができたか。	b	校務等におけるICTの活用による業務の効率化を積極的に継続した。教育課程や学校行事の見直し等により教職員の在校等時間の短縮に努めることができた。	A	A ・働き方改革と現場の状況の格差は福祉の現場でも同様です。難しい課題ですが業種間わず意見交換でアイディアを共有できればと思っています。
5 家庭・地域と連携・協働した教育活動の充実	コミュニティスクールの取組を通じて、家庭・地域と一体となった学校運営を推進できたか。	a	学校運営協議会委員の方々には、学校の教育活動の様子を丁寧に伝えながら、ご意見を頂戴していく。	A	A ・今年度初めての参加だったが、小学校の取り組みの理解や地域の方と話すとても大切な機会となりました。
	家庭・地域・学校がめざす子ども像や教育目標、学校運営の基本方針を共有することができたか。	a	学校便りをはじめとした各種通信、地域のイベントへの参加等を通して、学校の教育方針および教育活動や児童の様子を保護者・地域に伝えることに努めた。	A	A ・幼小の連携をとり、スムーズな小学校への移行ができるように、交流を深めていきたい。 ・お隣の敷地にある事業所として職員皆で共有させていただいています。引き続きお願いいたします。

■ 自己評価達成状況

a	ほぼ達成できた（8割以上）
b	概ね達成できた（6割以上）
c	十分ではない（4割以上）
d	達成できなかった（4割未満）

■ 自己評価の適切さ及び改善の方策の適切さにかかる評価

A	自己評価及び改善策は適切であり、取組を進めるべきである。
B	自己評価及び改善策は適切であるが、若干の修正は必要である。
C	自己評価及び改善策の方向性はよいが、若干の修正が必要である。
D	自己評価及び改善策を再度検討する必要がある。